EXTREME_BOOST

個人製作

制作時期 : 4年前期

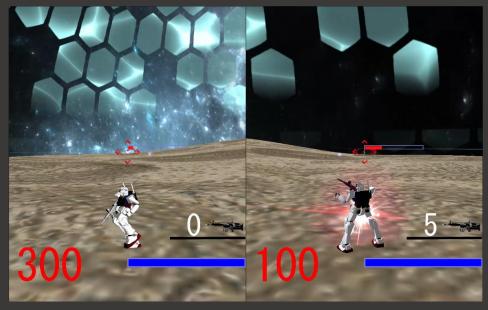
制作期間 : 4 か月

使用言語 : C++

使用ライブラリ:DXライブラリ

使用ツール : Visual Studio

ずっと制作してみたいと思っていた、 3D対戦ゲームです。 ガンダムエクストリームバーサスシリー ズを目標に、一対一のゲームしました。



https://youtu.be/Ng4OAS0jCNE



アニメーションブレンド

立ちモーションから、歩きアニメーションなどに移行するときに、 いきなり切り替わるのではなく、徐々に切り替えることで、 継ぎ接ぎ感のない滑らかなアニメーションにしました。

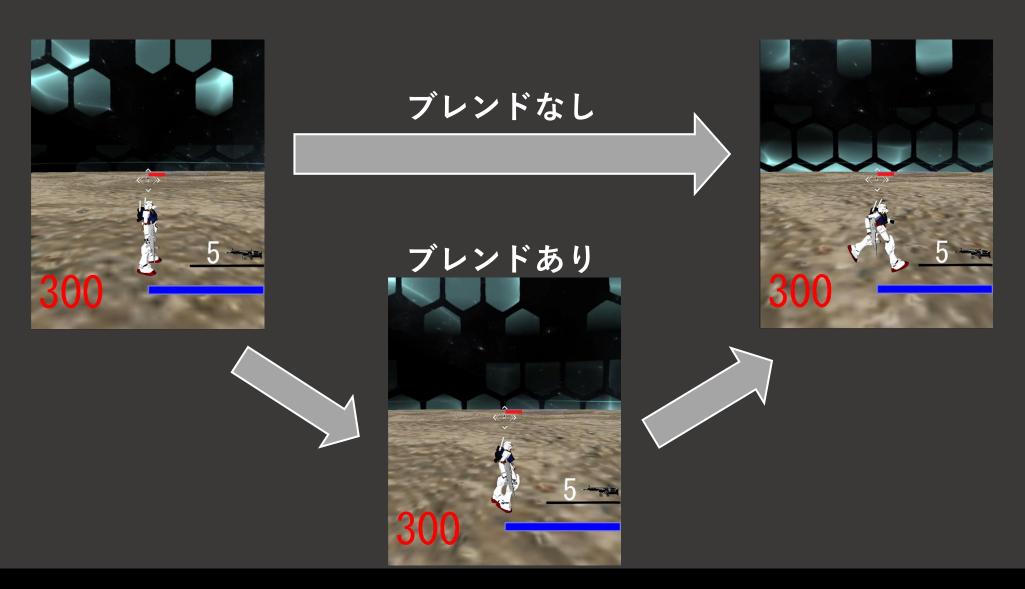






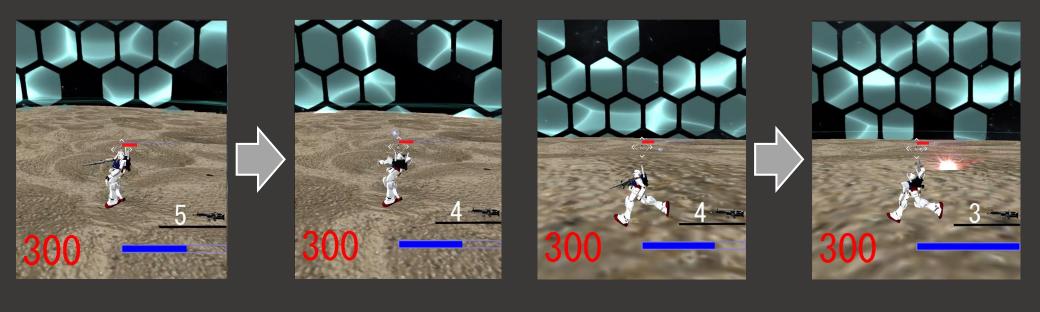






上下半身を分けたアニメーション

上半身と下半身のアニメーションを分けているので、射撃中は上半身のみ射撃アニメーションをして、下半身は歩きや立ち、ジャンプなどその時の移動アニメーションを行うことができます。



アニメーションの制御

上半身プレイ、下半身プレイ関数を使ってアニメーションを 切り替えます。そのとき、ブレンドフラグをtrueにして、 切り替え先アニメーションと現在アニメーションの情報を保存します。

上半身

```
void RobotAnimeController::UpperBodyPlay(int type, bool priority, bool isLoop,
bool isStop, float endStep, float startStep, bool isForce)
  /現在再生中のアニメーションとタイプが違い、優先再生でもなく、かつアニメーションタイプが-1でなければアニメーションを入れ替える
 if (!(playAnim_[Body::UP].priority_) && playType_[Body::UP] != static_cast<STATE>(type) && type != -1)
    auto newType = static_cast<STATE>(type);
    if (!blend [Body::UP].blendFlag)
       blend_[Body::UP].attachNo_ = playAnim_[Body::UP].attachNo_
         /現在のプレイタイプをブレンドアニメーションタイプに格納
       blend_[Body::UP].type_ = playType_[Body::UP];
        //新しいアニメーション情報を再生アニメーション情報に格納
       playAnim_[Body::UP] = animations_[type];
       playType [Body::UP] = newType;
        //新しいアニメーションがまだアタッチされていなければ
        if (!isAttach_[newType])
            /アニメーションをアタッチして現在再生中アニメーションナンバーに格納
           playAnim_[Body::UP].attachNo_ = MV1AttachAnim(modelId_, 0, playAnim_[Body::UP].model_);
           MV1SetAttachAnimBlendRateToFrame(modelId_, playAnim_[Body::UP].attachNo_, 60, 0.0f, true);
           isAttach_[newType] = true
           attachedTypeNum_[newType] = playAnim_[Body::UP].attachNo_
          playAnim_[Body::UP].step_ = startStep;
            /アタッチされていない場合、アタッチする
          playAnim [Body::UP].attachNo = attachedTypeNum [newType];
```

下半身

```
void RobotAnimeController::LowerBodyPlay(int type, bool priority, bool isLoop,
 bool isStop, float endStep, float startStep, bool isForce)
  /アニメーションタイプが違い、かつアニメーションタイプが入っていたら
 if (!(playAnim_[Body::LOW].priority_) && playType_[Body::LOW] != static_cast<STATE>(type) && type != -1)
     auto newType = static_cast<STATE>(type);
     if (!blend [Body::LOW] blendFlag )
        blend_[Body::LOW].attachNo_ = playAnim_[Body::LOW].attachNo_;
        blend_[Body::LOW].type_ = playType_[Body::LOW];
        playAnim_[Body::LOW] = animations_[type];
        playType_[Body::LOW] = newType;
         //切り替わり先のアニメーションがアタッチ済みかどうかを判定
        if (!isAttach_[newType])
             /アタッチされていない場合、アタッチする
            playAnim_[Body::LOW].attachNo_ = MV1AttachAnim(modelId_, 0, playAnim_[Body::LOW].model_);
            MV1SetAttachAnimBlendRateToFrame (modelId_, playAnim_[Body::LOW].attachNo_, 60, 0.0f, true);
            isAttach_[newType] = true;
            attachedTypeNum_[newType] = playAnim_[Body::LOW].attachNo_;
            playAnim_[Body::LOW]. step_ = startStep;
             /アタッチ済みの場合すでにあるアタッチ番号をそのまま使用
            playAnim_[Body::LOW].attachNo_ = attachedTypeNum_[newType]
            if (!startStep == 0.0f)
               playAnim_[Body::LOW].step_ = startStep;
               playAnim [Body::LOW].step = MV1GetAttachAnimTime(modelId , playAnim [Body::LOW].attachNo
```

アニメーションの制御

ブレンドフラグがtrueの時は、アニメーション通常再生を止めて、切り替え先アニメーションと、現在再生中のアニメーションの影響率を $0 \sim 1$ の間で上下させます。切り替え先のアニメーションを0から1に上げ、現在のアニメーションを0になるまでに徐々に減らします。

ブレンドが完了したら、ブレンドフラグをfalseにして通常再生に戻します。

上半身

下半身

ステートパターンを使って状態遷移

ステートベースクラスを継承した、ステートクラスを複数作成して、 そこでそのステート固有の動きを、更新していきます。

プレイヤーのアップデート関数では、 ステートのアップデートを呼ぶ

ステートパターンを使って状態遷移

新しい動きを実装したいときもステートクラスを増やすだけで、 プレイヤー側のアップデートなどに触れずに実装ができるので、 不具合が出たときの問題個所の特定などもしやすくなり、 より管理をしやすくなりました。

ダメージステート



ブーストステート

